

大すきな町



ゆうやけ こやけで ひが くれて
やまの おてらの かねが なる
おてて つないで みな かえろ
からすと いっしょに かえりましょう

夕方^{がた} おうちに 帰^{かえ}るころ、厚木^{あつき}の町では、
「タやけ 小やけ」の音楽^{おんがく}が ながれます。

「タやけ 小やけ」のしは、今^{いま}から 百年ぐら
い前^{まえ}に、中村雨紅^{なかむらうこう}という 人^{ひと}が 作^{つく}りました。

雨紅^{うこう}さんは、厚木^{あつき}の町に すんで、高校^{こうこう}で
勉強^{べんきょう}を 教^{おし}えたり、しを 書^かいたり していまし



た。厚木^{あつぎ}が 大すきでした。

あゆが たくさんつれる 相模川^{さがみ}。

さん歩^ぽに 行^いって、川を 見ることも すきで
した。

夏^{なつ}には、ケロケロ かえるの^{こえ}声。

夜^{よる}には、ほたるが ピカピカ チカチカ。
かえるも ほたるも 大すきでした。

にわの草は、とってしまおうと かわいそう な
ので、自^しぜんのままに していました。

草も 大すき。

木も 大すき。

花も 大すき。



かきの木に 来る ひよどりとも 大のなかよし。
し。

まどの外そとには、田んぼが いっぱいありました。
むこうには、きれいな大山おおやまが 見えました。

雨紅うこうさんは、まどから この 大すきな厚木あつぎの
町が 見わたせるように 家いえを つくりました。
そして、うつくしいけしきを 楽たのしんで くらした
のです。

(作さく かながわけんへんしゅういんかい 神奈川県編集委員会 / 絵え たなかしろう 田中四郎)

1 なかよしの ひよどりは 雨紅うこうさんに どんなことを 教えて
くれたのかな。

2 わたしたちの すむ町の どんなところが すきかな。